

沿革

1912年～1940年代 荏原グループの基礎づくり

1912.11	東京帝国大学井口在屋博士が主幹、畠山一清が所長となり、みのくち式機械事務所を創業。	1938. 4	東京市蒲田区羽田に羽田工場を建設し、品川より本社および工場を移転。
1920. 5	会社設立とともに工場を東京府荏原郡品川町南品川に設け、みのくち式機械事務所の事業を継承し、渦巻ポンプなどの製造を開始。 荏原製作所の名称は当時の地名（東京府荏原郡）に由来する。	1941.12	川崎工場を新設。
		1945. 4	戦災により羽田工場は、ポンプ試験場、製缶工場および本館を除き使用不能と化したため、川崎工場に生産を移管。

1950年代～1970年代 社会が求めた荏原グループの技術

1955. 1	生産の主力を羽田工場に復帰。	1975. 1	戦後初の海外生産拠点としてブラジルに Ebara Industrias Mecanicas e Comercio Ltda. を設立。
1956. 1	水処理装置の製造および販売を目的として、荏原インフィルコ株式会社を設立。	1975.11	袖ヶ浦工場を新設し、主としてコンプレッサおよびタービンの製造を開始。
1964. 4	戦後初の海外事務所をバンコックに開設。	1979.12	東南アジアにおける標準ポンプの生産拠点として、インドネシアに P.T. Ebara Indonesia を設立。
1964. 6	製品のアフターサービスを目的として、荏原サービス株式会社を設立。		
1965. 4	藤沢工場新設。日本で初めて標準ポンプ量産体制を確立。また冷凍機生産を羽田工場より移管。		

1980年代～1990年代 社会に広がる荏原グループの技術

1981. 1	北米のポンプ事業拠点として、米国に Ebara International Corp. を設立。	1989. 1	ステンレスプレス製標準ポンプの生産拠点として、イタリアに Ebara Italia S.p.A . (現 Ebara Pumps Europe S.p.A.) を設立。
1985. 1	川崎工場を藤沢工場に統合し、生産体制の再編成を実施。	1992. 8	各種ボイラの生産拠点として、中国に青島荏原環境設備有限公司を設立。
1987. 7	藤沢工場内に精密機械工場を建設し、半導体産業向け真空機器の生産を開始。	1994.10	荏原インフィルコ株式会社を吸収合併。

2000年代～ 100年を超えて

2000. 4	汎用風水力機械の営業部門を分離の上、荏原サービス株式会社に統合し、荏原テクノサーブ株式会社として営業開始。	2006. 5	中国における標準ポンプの生産・販売・サービス拠点として、荏原機械 (中国) 有限公司を発足。
2000. 4	コンプレッサ・タービン事業大手の Elliott Company (米国) を完全子会社化。	2009. 4	グループ内の水処理事業を荏原エンジニアリングサービス株式会社へ統合。
2001. 6	CMP装置などの生産拠点として設立した株式会社荏原九州が操業を開始。	2009.10	グループ内の廃棄物処理事業を荏原環境プラント株式会社へ統合。
2002. 4	コンプレッサ・タービン事業を分社化、株式会社荏原エリオットを設立。	2010. 1	富津工場を新設し、羽田工場の機能を移転。
2002. 6	執行役員制度を導入。	2010. 3	荏原エンジニアリングサービス株式会社 (現 水ing株式会社) を、三菱商事株式会社、日揮株式会社との三社提携による総合水事業会社とする。
2002. 9	冷熱機械事業を分社化、荏原冷熱システム株式会社を設立。	2010.10	株式会社荏原九州を吸収合併。
2003. 5	中国におけるAPIポンプの生産販売拠点として、嘉利特荏原泵業有限公司を設立。	2012. 4	ポンプ事業のグループ内再編として、荏原テクノサーブ株式会社と株式会社荏原由倉ハイドロテック、株式会社荏原環境テクノ北海道の三社を吸収合併。
2005. 4	カンパニー制を導入。本社機能を担うコーポレートと、風水力機械、環境事業、精密・電子事業の3カンパニー体制とする。	2012.11	創業100周年を迎える。
2005. 8	中国における大型・高圧ポンプの生産販売拠点として、荏原博泵泵業有限公司 (現 荏原機械淄博有限公司) を設立。		